

広報広聴委員会行政視察報告書

1 視察期間

平成29年7月27日 1日間

2 視察都市

(1) 滋賀県彦根市

3 参加者

芥川栄人委員長、根津康広副委員長、江塚 学委員、小池和広委員
鈴木正人委員、草地博昭委員、川崎和子委員
随員 河野順一副主任

4 視察事項

- (1) 市の概況について
- (2) 議会報告会の実施及び運営について

5 考察

次のとおり

I 彦根市 人口：112,660人・面積：196.87㎢（平成29年4月1日現在）

1 議会報告会の実施及び運営について

(1) 概要

彦根市議会では、平成24年1月に「議会に関するアンケート」を実施し、その後、議会改革特別委員会の設置、専門家からの意見聴取、パブリックコメントを経て、平成26年3月に議会基本条例を制定した。また、視察対応プロジェクトチームを編成し、議会への行政視察の対応を議員が行っている。今回の説明も3人の議員で行われたが、連携もよく明確な説明であった。

彦根市議会では、議会基本条例に基づき、広報広聴にかかる3組織（全議員が参加）を下記のとおり設置している。

- ① 広報広聴活性化推進委員会：市民に開かれた、わかりやすい議会の実現に向けて、広報広聴機能の活性化に資する施策をあらゆる角度から検討する委員会。具体的には、議場コンサート、子ども議会や中学生傍聴など。
- ② 広報委員会：議会の情報を発信。より多くの市民に議会を知ってもらうための広報を行う委員会。具体的には、議会だよりの編集、市議会FacebookやHPの更新など。
- ③ 広聴委員会：議会活動の情報を発信・報告し、来場等をきっかけとして広く広聴を行う委員会。具体的には、議会報告会に関すること（報告内容、周知方法、日程調整等検討）など。

議会報告会は、平成26年度に全議員を6人ずつに振り分け、7中学校区で開催した。平成27年度は、前年の反省から報告会のあり方を広聴委員会で検討し、ワークショップ形式での開催を決定し、市内各種団体を対象に進めた。平成27年12月開催の第4回議会報告会は「おんな城主直虎を活かした集客戦略について」をテーマに開催し、寄せられた意見から市への政策提言「大河ドラマ放映を契機に集客を図るために、早期に市内プロジェクトチーム編成を！」につなげている。

平成28年2月には、民生児童委員協議会連合会、彦根市消防団や彦根仏壇事業協同組合とそれぞれに該当するテーマでワークショップ形式での報告会を開催した。

また、同年8月には市内の3大学の学生と「参議院議員選挙から見た若者の投票行動について」をテーマにワークショップ形式での意見交換を実施し、翌年1月には同テ

マで彦根東高校新聞部の生徒を対象に実施した。

平成29年2月からは、これまでのワークショップ形式やテーマ設定の反省をふまえて3常任委員会（企画総務消防・福祉病院教育・市民建設産業）が3会場に分かれて実施した。解決のために議員はスキルアップし、市民サイドからは市への提言をできる場が増えたなどの効果がでている。

(2) 考察

私たち議員は、市民に選ばれ議席を預かった市民の代表として、少しでも議会に興味を持っていただけるように努力していかなければならない。そのためにも、彦根市で行われている議会側から出向き、ワークショップ型で議会報告会を行うことは、市内各種団体や市民の本音の課題を知るために大変重要な機会だと思う。

先般の静岡産業大学での議会だよりの取材を通じた学生との意見交換は、まさにワークショップではなかったかと思う。市民型ワークショップは必要と考えるが、テーマ選定や運営方法等の課題もあるため、今後の議会報告会に向けてのテーマとしていきたい。

われわれ広報広聴委員会の重要な役割は、①開かれた議会、②わかりやすい議会、③身近な議会を目指していくことである。そのための広報機能が議会だより「いわた羅針盤」であり、広聴機能が議会報告会である。

市議会に対する意識の差はあるにしても、議会報告会は市民参加の場であり、市民との意見交換をする貴重な機会である。また、市民自治を育てていくための重要な機会でもある。

議会報告会を固定的内容でとらえず常に見直しを図り、内容を変更していく柔軟さが必要と考える。市民から寄せられる声を議会として検討し、市側への提案につなげていく仕組み作りにも挑戦していきたいと思う。